盤は残念ながらいまだ多くをボランティア に頼り、まだまだ脆弱な状況が続いてい る。昨年の統計では在留外国人の人数 は247万人以上、訪日外国人は昨年は 2800万人を突破したこともあり、コミュニ ティ通訳はもはや「社会インフラである」と 言っても過言ではない状況となっている。

この社会インフラとしての通訳を整備す ることを目的として、2017年10月に一般

通訳の新たな試験 「一般通訳検定 | が今春スタート

Interpreation

社団法人通訳品質評議会が発足した。そ して今年度より、通訳品質評議会はこれ からの日本の社会インフラとして必要なコ ミュニティ通訳の育成と地位向上に寄与 するため、一般通訳検定 (Test of Universal Interpreting: TOUI >-1) & 実施することになった。 去る4月21日に 第一回の検定が行われた。

TOUIは筆記試験(通訳倫理と文化理 解)と実技試験(逐次通訳)の2つから なる。レベル別に「上級」、「中級」、「初 級」に分かれており、それぞれ受験者が 選んで受験する形で、試験結果に応じて 1級~10級を判定する。言語は英語・中 国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル 語・ロシア語。

6月9日に「中級」の検定試験を実施 予定。「上級」「初級」については確定 次第、HPにて告知。今後の日程や詳細 についてはHPを参照のこと。

*https://www.interpreter-gc.org/tout

1 ※ 発に必要な専門知識を正確で取りこ ぼしのない逐次通訳ができる。業務としては、 警察内での通訳、病院での診察・診断時の通 訳ができる。

(全間) 業務に必要な専門知識を有し、正確な 逐次選訳ができる。業務としては、病院の入退 院手続き・人間ドッグ等の手順説明の通訳がで 作る。

[3曲] 業務に必要な専門知識を有し、意思疎 **通に問題ないレベルの逐次通訳ができる。業務** としては、行政窓口でのクレーム対応、学校関 係者とのコミュニケーションサポートができる。

[4冊] 業務に必要な基礎知識を有し、話者の 意図を理解し、ある程度難易度の高い内容も 概ね伝えることができる。業務例としては、行 政窓口での手続き説明、展示会等での簡単な 商談の通訳ができる。

| 5日| 業務に必要な基礎知識を有し、話者の 意図を理解し羅易度の高くない内容を伝えるこ とができる。業務例としては、各種イベントサポ 一ト業務 (接遇・誘導・施設案内等)ができる。

() 業務に必要な基礎知識を学習し、話者 の意図を概ね理解し難易度の低い内容であれ ば伝えることができる。業務例としては交通案 内、メニューの説明、遺失物問い合わせなど。

「ア基」外国語の会話スキルがあり、外国人と の簡単な意思疎通が出来る。

□ 商業の基本レベルのスキルを管得して おり、外国語で簡単な意思の表明ができる。

「9回」語学に興味があり、簡単な挨拶や自己

[10世] 語学に興味関心があり、単語とボディ ランゲージを交えて意思を表明できる。

「通訳・翻訳ジャーナル 2018年夏号」より

TOPICS Pick Up

東京オリンピック ボランティア募集の概要発表

Interpreation

A TEN A TEN DE L'INITE DE L'ANDRE DE L'ANDRE

清朝分割	人数の音楽	活動內容	
案内	16,000~25,000人	会場内で観客やオリンピック・パラリンピック関係者の案内/チケットチェック/セキュリティチェックサポート など	
競技	15,000~17,000人	各競技や練習会場内での競技運営等のサポート など	
移動サポート (運転等)	10,000~14,000人	関係者が会場間を移動する際に車を運転 など	
アテンド	8,000~12,000人	海外要人等が快適に日本で生活できるよう、空港や会場などで接 選/選手が快適な競技生活を送れるように外国語でのコミュニケ ーションサポート/選手がメディアからインタビューを受ける際のコ ミュニケーションサポート など	
運営サポート	8,000~10,000人	競技会場や選手村の運営サポートや車両運行の運営サポート/ ユニフォーム配付/オリンピック・パラリンピック関係者のID発行/ 「チェックイン」受付/選手村やメディアセンターにて物品の貸し 出し など	
ヘルスケア	4,000~6,000人	急病人やけが人が出た場合にすばやく対応するための「ファースト レスポンダー」 / 選手にけが人が出た場合、医務室への搬送サポ ート/ドーピング検査員が検査を実施する際のサポート など	
テクノロジー	2,000~4,000人	通信機器等の貸出や回収などのサポート/ 鉄技会場内で競技結 果の入力や表示を行う など	
メディア	2,000~4,000人	記者、フォトグラファーの取材の管理サポート/記者会見をスムーズに行うための準備・運営サポート/大会を記録するための記録 用写真や助画の編集サポート/選手材の新聞制作のサポート など	
式典	1,000~2,000人	各競技の表彰式で、選手や関係者の案内やメダル・記念品などの 管理サポート など	



2018年	7月下旬	募集要項発表
	9月中旬~12月上旬	応募登録
2019年	1月~7月頃	面接·説明会案内受取
	2月~	面接說明会参加
	10月~	共通研修参加
2020年	3月~	役割·会場(採用)通知受取
	4月~	役割別・リーダーシップ研修参加
	5月~	ユニフォームなど受取
	6月~	会場別研修参加

18年2月5日で、東京オリン ピック開幕まで900日となり、 各方面で準備が本格化して

いる。なかでも、大会運営を支えるのがボ ランティアの存在だ。東京オリンピックで は、大会運営に携わる「大会ボランティ ア」を8万人、旅行者に対する観光・交 通案内、競技会場までの観客の案内及 びライブサイト運営のサポートを行う「都市 ボランティア」を3万人、計11万人のボ ランティアを募集する予定である。

大会ボランティアの役割は多岐に渡 り、選手・メディア海外要人などの大会関 係者に対して外国語でのコミュニケーショ ンサポートなどを提供する「アテンド」もあ る。いわゆる通訳の役割となるので、現 役通訳者や、通訳者を目指す人の中には 興味を持つ人もいるのではないだろうか。

大会ボランティアの運営主体である 「東京オリンピック・パラリンピック競技大 会組織委員会」が3月28日に「大会ボ ランティア募集要項(案)」を発表した。 「大会ボランティア募集要項」は、2018 年7月下旬に公表する予定だが、内容は ほぼ同等となる予定だ。

これによるとボランティアは9月中旬に 応募受付を開始する予定。また、面接は オールジャパンでの参加を促すため、東

京、北海道、宮城、福島、茨城、静岡、 愛知、大阪、福岡で実施予定。

また、ボランティアの活動分野と現時点 の人数の目安も発表されている(表参照)。 関心のある人はぜひ、今から準備しよ

著者は3大会のボランティアを経験! 「東京オリンピックのボランティアに なりたい人が読む本 (西川千春著/イカロス出版刊)

詳細は「通訳翻訳WEB」やイカロス出版ホーム ベージなど

※詳細「東京2020大会のボランティア活動」

https://tokyo2020.org/jp/get-involved/volunteer/about